

計量経済学 (2単位)

担当者氏名 田中裕人

◆学習・教育目標

本演習では、農業や環境に関して、計量経済学による分析方法を学ぶ。特に、個人の行動原理に立脚した非集計行動モデルに着目して、モデルの推定、検定、データの収集、モデルによる予測などに関して理論的な説明を行う。

本演習では、様々なロジットモデルに関する講義を行うので、モデルの推定、検定、予測などに関する大学院修士課程レベルの統計学の知識を必要とする。そのため、受講希望者は、統計学について十分に理解しておくこと。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

非集計行動モデル モデルの推定 検定 サンプルング
 予測 ロジットモデル 統計ソフト

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	ガイダンス	ガイダンスを実施する	理解できるまで予習・復習を行う。
2	ロジットモデル	ロジットモデルなど	理解できるまで予習・復習を行う。
3	非集計行動モデル	非集計行動モデルの意義	理解できるまで予習・復習を行う。
4	モデルの理論展開(1)	非集計行動モデルの理論展開(1)	理解できるまで予習・復習を行う。
5	モデルの理論展開(2)	非集計行動モデルの理論展開(2)	理解できるまで予習・復習を行う。
6	二項ロジットモデル	二項ロジットモデルの推定と検定	理解できるまで予習・復習を行う。
7	多項ロジットモデル	多項ロジットモデルの推定と検定	理解できるまで予習・復習を行う。
8	入れ子型ロジット	入れ子型ロジットモデルの推定と検定	理解できるまで予習・復習を行う。
9	調査とデータ作成(1)	調査項目の設定	理解できるまで予習・復習を行う。
10	調査とデータ作成(2)	サンプルングと調査方法	理解できるまで予習・復習を行う。
11	標本抽出法	様々な標本抽出法とその特徴	理解できるまで予習・復習を行う。
12	モデルによる予測(1)	非集計行動モデルによる予測(1)	理解できるまで予習・復習を行う。
13	モデルによる予測(2)	非集計行動モデルによる予測(2)	理解できるまで予習・復習を行う。
14	統計ソフトでの分析(1)	統計ソフトを利用した分析(1)	理解できるまで予習・復習を行う。
15	統計ソフトでの分析(2)	統計ソフトを利用した分析(2)	理解できるまで予習・復習を行う。

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

非集計行動モデルの理論と実際/土木学会/土木学会 (1995)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

計量経済学/田中勝人/岩波新書 (1998)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

試験で全て評価する。ただし、理由なく欠席をするたびに減点する。

◆その他受講上の注意事項

大学院修士課程レベルの統計学の知識を前提として授業を進めます。また、パソコンを利用する場合があるので、少なくとも Excel や SPSS などを使いこなせるようにして下さい。